

経営比較分析表（令和4年度決算）

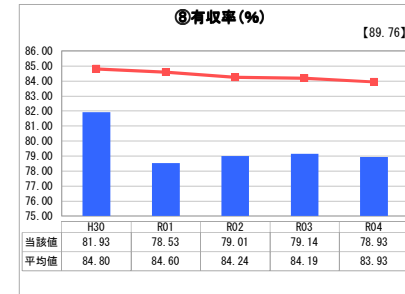
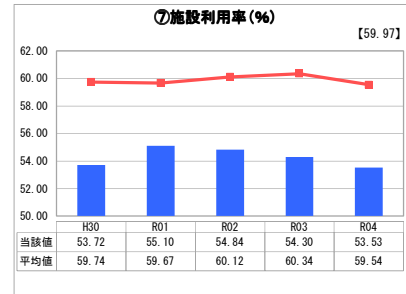
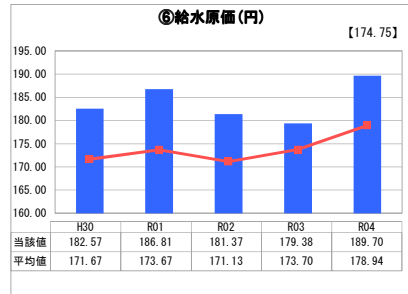
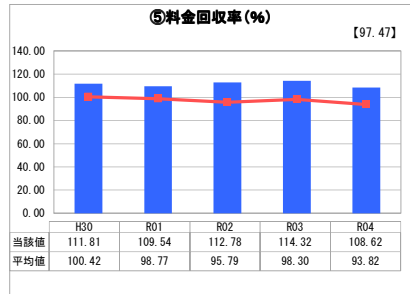
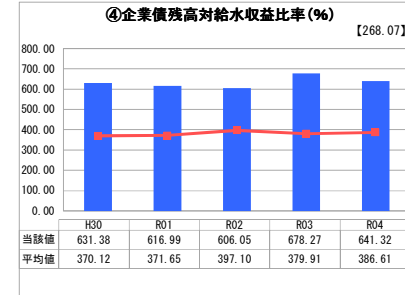
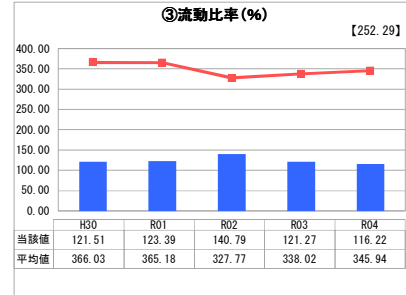
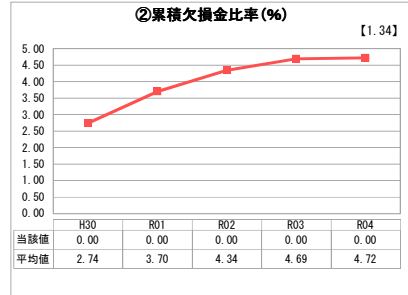
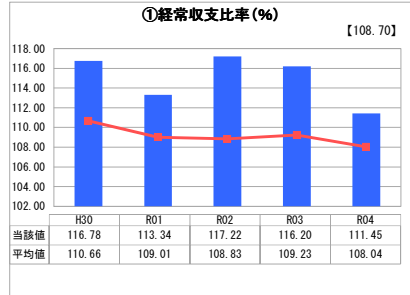
秋田県 能代市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A5	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	57.83	84.46	3,685	

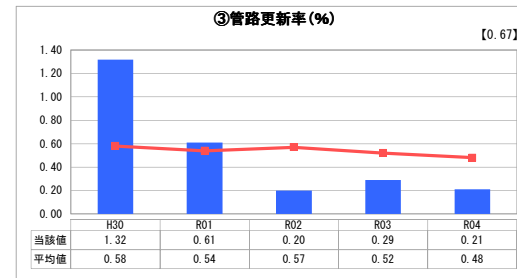
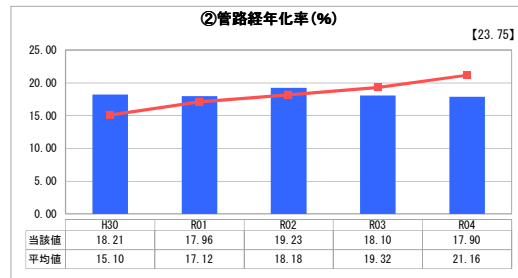
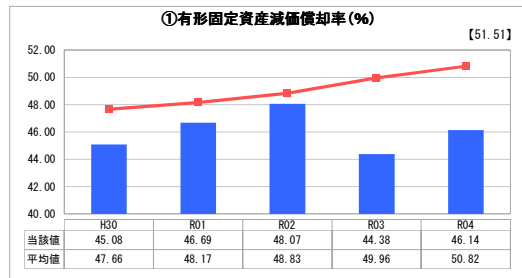
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
49,353	426.95	115.59
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
41,343	123.81	333.92

グラフ凡例	
■	当該団体値（当該値）
—	類似団体平均値（平均値）
【	令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率や料金回収率については、令和3年度に二ツ井・荷上場地区簡易水道事業を統合した後も100%以上を維持するとともに、類似団体平均値を上回っている。

流動比率については、安定的な収益が確保されているため、横ばい傾向である。

企業債残高対給水収益比率については、二ツ井・荷上場地区簡易水道事業との統合により上昇したが、浄水場整備等の大規模建設改良事業が終了していることから、企業債残高は今後減少傾向の見込みである。人口減による給水収益の減少も見込まれるため、適切な投資規模を維持していく必要があると考えている。

給水原価については、維持管理費の増加により前年度に比べ上昇している。

施設利用率は、人口減少に伴う配水量の減少により類似団体平均値を下回っているが、今後の拡張事業に係る配水量や災害時等の水需要も考慮しながら、将来の適正な施設規模を検討していく。

有収率については、類似団体平均値より低い水準で推移しており、引き続き漏水調査を行いながら、計画的な更新、修繕を続けて行く必要があると考えている。

2. 老朽化の状況について

老朽化の著しい基幹管路の更新については、平成25年度までに終了し、平成26年度からは小口径の管路の更新を進めている。

今後も法定耐用年数を越えた管路が増えていくことから、計画的かつ効率的に管路の更新事業を進めていく。

あわせて地下漏水量を抑えるための対策として令和2年度から漏水調査を実施している。

全体総括

今後の経営見通しでは、給水収益の減少や費用の増加に伴い、純利益は減少していくものと考えている。

施設整備では老朽管路の更新等を実施しており、今後も引き続き事業費の平準化を図りながら経営状態を考慮した事業規模を検討していく。